

新刊紹介

オスワルド・デ・リベロ著（梅原弘光訳）

『発展神話の仮面を剥ぐ—グローバル化は世界を豊かにするのか?—』

白坂直子

著者のオスワルド・デ・リベロ氏(De Rivero, Oswaldo)は、国連安保理のペルー代表をはじめ、WTO大使、七七カ国グループ議長など、ペルー国家のみならず、低開発世界を代表して重要ポストを歴任した、ペルー出身の外交官である。著者は本書において、グローバル経済下の低開発世界の現状と将来展望を述べるなかで、これまで現代世界の通念となってきた社会経済的「発展思想」に疑問符を突きつける。原著は一九九八年にペルーで出版されるや、ラテンアメリカ諸国で話題を呼び、以来、各国で翻訳されている。本学名誉教授の梅原弘光氏による日本語訳は、七カ国語目となる。

本書は、序章、第一章「国民国家の黄昏」、第二章「グローバル権力の台頭と国民の貧窮化」、第三章「国際ダーウィニ

ズム」、第四章「黄金郷を探して」、第五章「世界規模の略奪」、第六章「生き残り」、そして「訳者あとがき」から構成されている。以下、その章立てを追いながら、概略を辿ろう。

多くの低開発諸国は、中間階級の繁栄や科学技術の進歩に必要な基盤が整備されぬまま成立した。これらの国々は、冷戦下では、東西対立の二大陣営の一方から、政治的・財政的支援を得て存続することができたが、冷戦終結後には、IMFや世銀の指示の下、グローバル経済への参入を余儀なくされた【第一章】。IMFや世銀は、低開発諸国を貧困から開放し、新興資本主義経済国に転換させるため、構造調整や市場開放を導入させた。しかし、低開発諸国のほとんどは、グローバル市場で必要とされるサービスや科学技術を備えていないため、多国籍投資や技術的近代化は難しい。そのため、グローバル市場での競争力は欠如し、所得も増大せず、「発展途上」の名称とは裏腹に、貧困は拡大するばかりである【第二章】。こうした現実が生み出されるメカニズムを、著者は「国際ダーウィニズム」と呼ぶ。これは、脱物質化と労働集約化を目指す技術革新によって非効率なものが「淘汰」され、市場に適応した人間、会社、国民経済だけが生存を認められるグローバル市場の力学を指す。今日、コンピュータ化によって未熟練労働者はあまり

必要とされず、天然資源に代わる人口素材の開発が盛んに行われている。そのため、低開発諸国が持つ豊かな原材料と安価な労働力は、著しく価値が低下した。また、グローバル市場では、雇用を創出する貿易や直接投資とは無関係に、絶えず投機的な取引が行われている。この金融投機が瞬時にして莫大な利益をもたらす一方で、いくつもの低開発諸国を債務危機に陥れもした「第三章」。かくして低開発諸国は、IMFや世銀に従い、莫大な物的・人的犠牲を払ったにもかかわらず、いまだ一次産品や単純加工品の輸出に依存し、科学技術が発展せず、高い人口成長率に悩まされ、経済的成長力が失われつつある。著者はこれを「成長力欠如国民経済(NNEs)」として提示する。一方、工業化諸国を中心とした、エネルギーの大量消費に依存する高度な消費生活を送るのは、世界人口六〇億人のうち、一〇億人である。地球上の全人口が、工業化諸国と同じ水準の消費を行えば、地球環境はそれに耐えられないであろう「第四章」。グローバル経済下で、経済成長力欠如状態をいつそう悪化させた国々は、貧窮過程を経て、武装闘争が発生し、中央権力による制御が不可能な「統治不能な大混乱統一体(UCES)」に陥ることが懸念される「第五章」。著者はこのような現状に対し、低開発諸国は発展神話を捨て、国民に最低限必要な食料・水・エネルギーを確保する生き残り

の方法を模索せねばならないと締めくくる「第六章」。

低開発国と分類される国々は、一九五〇年代以降、広く流布した発展理論に則して「発展途上国」と称された。しかしながら、これら一六〇カ国のうち、実際に発展を遂げたのは、NICsのわずか四カ国のみであった。著者は、低開発諸国は「発展途上」ではなく、「発展」は単なる神話にすぎないと主張する。経済的發展がすべての国民国家に不可避の過程で、諸国民の富という「黄金郷」への到達が可能であるとする発展神話が、実際は、五〇億人もの貧困といった犠牲の上に成り立っているのは皮肉というほかない。

本書のスタイルは一定の科学的アプローチに基づいて議論を展開する学術研究書のそれとは異なる。しかしながら、四〇年近い外交経験から培われた著者の豊かな見識と洞察をもとに、単線的発展理論に内在する矛盾を明確に指摘した点は、重く受け止める必要があるのではないか。また、訳者あとがきでは、地域的差異が、発展思想にもとづき、発展と遅滞による時間軸上の差異として捉えられるようになった、といった鋭い指摘と共に、本文の議論を補強する分析が展開されている。本文と併せて一読されたい。

(古今書院、二〇〇五年三月、二三二頁、二八〇〇円(税別))

(本学文学研究科地理学専攻博士課程後期課程)